『オークの樹の下』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『オークの樹の下』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『オークの樹の下』を読んだことのある20代～50代の男女67名
調査期間	2026年1月10日～2026年1月14日 2026年4月23日～2026年4月24日 2026年5月1日 2026年5月8日 2026年5月15日 2026年5月22日 2026年5月29日 2026年6月5日 2026年6月12日 2026年6月19日 2026年6月26日 2026年7月3日 2026年7月10日 2026年7月17日 2026年7月24日 2026年7月31日 2026年8月7日 2026年8月14日 2026年8月21日 2026年8月28日 2026年9月4日 2026年9月11日 2026年9月18日 2026年9月25日 2026年10月2日 2026年10月9日 2026年10月16日 2026年10月23日 2026年10月30日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/okunokinosita/

■アンケート項目

Q1：年代と性別を教えて下さい。
Q2：『オークの樹の下』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1：年代と性別を教えて下さい。

20代男性	1人
20代女性	1人
30代男性	2人
30代女性	5人
40代男性	0人
40代女性	22人
50代男性	36人
50代女性	0人

Q2：『オークの樹の下』の感想を教えて下さい。

『オークの樹の下』1話～10話	最初はどうなるかと思いました。リフタンもマクシーも、互いを誤解し合っていたんですよね。話し合いをすれば解決するのでしょうが、会話はすれ違いばかり。当分この状態が続きそうと感じていただけに、ほっとしました。気になったのはカリプス城をどうするか。クロイソ家ではそういった教育を受けていない為、マクシーにはかなり荷が重いと思います。そういったことに詳しい人が身近にいればいいのですが、残念ながらいません。この問題をどう乗り切るのか、注目したいです。
『オークの樹の下』1話～10話	マクシーは小さい頃から吃音症のせいで、周りから色々言われたり虐げられてきたからネガティブな思考なのはしょうがないけれど、それに対するリフタンも庶民の出だからか、序盤はお互いが少し勘違いをしていて微妙にすれ違っている感じが、もどかしくもあり微笑ましいですね。それにしても一見クールでコワモテのリフタンが、マクシーにデレているのは可愛い。
『オークの樹の下』1話～10話	結婚して結ばれた。と思ったら翌朝にはもういなくなっていて。なんとも衝撃的な結婚生活。夢か幻かといった感じですね。そしてようやく戻ってきたと思ったら見知らぬ地位へと連れていかれることになって。まさに女性は所有物といった感じの扱いです。モノだからわざわざ断ることなく自由に動かせる。とはいえ、お城の人たちは優しくてよかった。
『オークの樹の下』11話～20話	ルースがグッジョブ過ぎました。もしルースがいなかったら、カリプス城の改修工事は大変なことになっていたと思います。商人達が調子に乗っていただけに、スッキリしました。
『オークの樹の下』11話～20話	嫉妬にしろ愛情表現にしろ、リフタンは硬派で寡黙そうな見た目に反して意外と感情の起伏が激しいんだなと感じるシーンがたくさんあり、自分に自信が持てなくて後ろ向きな考えをしがちなマクシミリアンにはリフタンのような男性がぴったりなのではないかと思いました。リフタンもマクシミリアンのおかげで良い方向へ変化しているとのことなので、お互いを補い高め合える、お似合いの2人なのかもと思いました。
『オークの樹の下』11話～20話	確かにお城の人たちは良い人ばかりですが、肝心の旦那が言葉足らずで、肌を触れ合うことで少しは彼の愛に気が付いたなら良いのですが。そして少し慣れて落ち着いたかと思ったらリフタンが王都へ。大好きなというよりも政略結婚でよくわからないままに結婚した相手ですから、不在となったら気持ちも緩んで体調崩して当然ですよね。でもさらに業務もたまっていて、大丈夫なんでしょうか。

『オークの樹の下』21話～30話	リフタンの登場シーンが痛快でした。カリプス城にはルースやオバロン卿もいましたし、それなりの戦力はあったと思います。そして敵はそれ以上の戦力を持っていたわけですけど、リフタンが姿を見せただけで戦意を喪失。よほどリフタンって強いんでしょうね。
『オークの樹の下』21話～30話	改装工事が完了。やっぱりお城といえばその土地の象徴なんですから、美しくないといけないですよね。そんな中で魔法の素質があるとなったヒロイン。一気にファンタジー要素が高まります。日本とはまた違ったどこか遠い国は魔法だけでなく戦いだってある。ここでも彼女のことを考えるリフタンが優しい。まさにつり橋効果で二人の愛は高まってる感じがします。
『オークの樹の下』21話～30話	マクシミリアンの行動に対して怒るリフタンですが、彼の気持ちもすごくわかります。マクシミリアンのことが心配で、愛しているからこそ危ないところに出てきてほしくなかったのでしょう。咄嗟に強い言葉が出てしまうというのは、戦場に出ている騎士なら当然のこと。ちょっとひどい！と思ってしまいましたが、これこそがリフタンの愛情がよくわかるシーンだと改めて気づきました。
『オークの樹の下』31話～40話	マクシーの頑張りを褒めてあげたいです。マクシーは気弱な性格をしている上、吃音症というハンデまで背負っていました。しかも、アナトールの人々すべてから歓迎されているわけではありません。どちらかと言えばアウェイでした。それでも挫けず、領主の妻として務めを果たそうとする姿に感動しました。気になったのは魔物の襲撃です。防備を万全にしたと思っていただけに、これは想定外。これだけのモンスターが気づかれずに侵入するとは考えづらいですし、しっかり調べ上げて欲しいです。
『オークの樹の下』31話～40話	更にファンタジー要素が高まりますね。そして二人の愛も高まっているようでうれしいです。嫉妬心むき出しのリフタンとか、お守りをプレゼントされ大喜びのリフタンとか。中学生のような初々しい恋にはキュンキュンしちゃいます。マクシミリアンが城主の妻としての気持ちが強くなっているのもわかる。すべてが良い方向に進んでいますね。
『オークの樹の下』31話～40話	コワモテなリフタンがいかにも気弱そうな外見のマクシミリアンを溺愛している様子が、身長差もあいまって美女と野獣という感じで、素敵でした。そんなリフタンの愛情に応えようと、消極的だったマクシミリアンが己を奮い立たせてがんばる姿がとても健気で、応援したくなりました。これからのマクシミリアンの成長に期待したいです。
『オークの樹の下』41話～50話	マクシーが一生懸命頑張る姿には、思わず微笑んでしまいました。ナトールのために何かできることはないかと考えていたマクシーですが、ついにその方法を見つけたわけです。まだ座学の段階なので、魔法を使えるようになるのはもう少し先かもしれません。しかし、アナトールのために努力する姿は本当に素敵でした。
『オークの樹の下』41話～50話	リフタンのことが大好きだから、彼のために何かできることをやってあげたい。そんなマクシミリアンの気持ちがけなげです。こんな風に愛されるってうれしいことですよね。とはいえ、魔法ってなんとも難しそうですね。いろいろと覚えることが多くあるし、本を読んで呪文を唱えればよいだけともいかないみたい。ルースもそんな彼女の頑張りをうれしく思っているみたい。
『オークの樹の下』41話～50話	ルースやニルタたちだけでなく、子猫にまでジェラシーを感じてしまうほどマクシミリアンにベタ惚れで、彼女にかまってほしがるリフタンが、外見とのギャップ効果でとてもかわいらしく見えました。また、第三者視点で見れば本当にリフタンはマクシミリアンにめろめろだし、スキンシップもかなり密にしているのに、それでも不安になってしまうマクシミリアンの姿からは、彼女の不幸な生い立ちが察せられて切なくなりました。
『オークの樹の下』51話～60話	マクシーの魔法修行が飛躍的に進展して驚いています。それだけに、ウスリンに断られたのは残念でした。ルースが実践してみてはというぐらいですから、回復魔法を使えていたように思いますから。気になったのはリフタンと騎士団の関係です。ルースは問題ないように言ってましたが、騎士団とリフタンの関係が悪化したのではないでしょうか。リフタンにとって騎士団は自分の手足のようなものだけに、早く仲直りして欲しいです。
『オークの樹の下』51話～60話	マクシミリアンとルースが一緒にいるところを見てやきもちを焼いてしまうリフタンも、リフタンのことが好きだからこそ彼の言葉に過剰に反応して思わず涙を流してしまったり不安に襲われたりしてしまうマクシミリアンも、２人ともなんだかかわいらしくて微笑ましい気持ちになりました。このちょっともどかしい関係に、アグネス王女という存在は一石を投じそうなので、今後どうなるのかド

	キドキです。
『オークの樹の下』51話～60話	マクシミリアンとルースやリフタンとのやり取りから、彼女はリフタンのために一所懸命これまでの自分を変えようとしているんだなと感じられました。なので、マクシミリアンのことをとても愛しているからこそ大切に守りたいというリフタンの気持ちも理解できますが、彼にはぜひ、愛しているからこそ相手の意志を尊重して見守るべき時もある・・・というふうに考え方を変えてほしいと思いました。
『オークの樹の下』61話～70話	とうとう、この時がやってきたかという感じですね。魔法の勉強に関しては、体調を崩す程頑張ってきました。その努力がようやく実を結んだわけです。これほど喜ばしいことはありません。吃音症にしても、ルースのアドバイスによってかなりの改善を見せました。プレッシャーのかかる場面以外だと、吃音症はほとんど出てきません。よく頑張ったねとマクシーを褒めてあげたいです。
『オークの樹の下』61話～70話	アグネス王女が、恋愛マンガに良く登場するような陰湿だったり高飛車だったりする悪女キャラじゃなく、素直な人柄だったことにホッとしました。ただしアグネス王女がいるとただでさえ2人とも不器用ですれ違い気味なリフタンとマクシミリアンの仲が変にこじれてしまいそうなので、はやく帰ってほしいなとも感じました。
『オークの樹の下』61話～70話	公爵令嬢とはいえ、吃音があり自身にコンプレックスを持っているヒロイン。彼女が陰ならアグネスは陽。まさに王女様といったオーラが感じられますね。しかもリフタンとの因縁があり、彼女もまたリフタンのことを変わらず憎からず思っている。強力すぎるライバル登場です。でもただ引き下がるのではなく思いを打ち明けるマクシミリアン。強くなりました。
『オークの樹の下』71話～80話	マクシーの頑張りに感動しました。ただ治療するだけでも大変なのに、現場はいつ魔物に襲われるかわかりません。そんな状況で、よくここまで出来たものだと驚きました。
『オークの樹の下』71話～80話	言葉足らずの二人には見ているこちらがやきもきしてしまいます。心配しているなら心配しているとちゃんと伝えればいいのに。かつての二人ならそのまま更に溝が深まっていっていただけですが、お祭りがきっかけとはいえマクシミリアンは特に変わりましたよね。アグネスが更に不穏のタネを持ち込むことなく帰っていってくれてよかった。
『オークの樹の下』71話～80話	妻のことが心配だから、こんな危険なところに行って魔物にも襲われそうになって、そんな彼女のことが気が気じゃないから。でもその態度はダメでしょう。当然、リフタンに対する不満は募っていくばかり。アグネス女王のこともあるし。そんなあれこれを発散できたのはすばらしいこと。もう彼女はおとなしく従うだけの人間じゃないのです。
『オークの樹の下』81話～90話	リフタンが少し気の毒でした。マクシーを心配する気持ちはよく理解できます。何よりも、マクシーが負傷者の治療にあたっていることを自分だけが知らなかったということは、かなりのショックだったでしょうしね。自分の行動を否定されるような言葉に対して怒りを感じるマクシーの気持ちも理解できます。しかし、リフタンを怒らせる原因を作ったのは自分だという事実を無視して拗ね続けるのは、どうかと思いました。
『オークの樹の下』81話～90話	ルースが不器用ながらもマクシミリアンを褒めているシーンに、心がほっこりしました。マクシミリアンの実直で努力家な性格が、どんどんルースのことを惹き付けているような印象を持ちました。一方でマクシミリアンとリフタンは空気がピリピリしている感じがあったので、この二人には早く仲良くなってほしいです。複数の人間ドラマが同時に展開していくところにどんどん引き込まれていきました。
『オークの樹の下』81話～90話	リフタンを無理やりにでも部屋へと連れて行ったり、何をしていると怒鳴られても「いけないことをしているわけじゃない」と言い返したり。マクシミリアンが強くなりました。これまでの経緯を見ていると母親目線で応援したくなっちゃいます。結局リフタンが謝って喧嘩は終わり。きっとこれからもそういう形で夫婦生活は続いていくのでしょうね。
『オークの樹の下』91話～100話	マクシーの成長ぶりには驚かされました。ルースから防御魔法を教わってはいたものの、あの時はほとんど役に立ちませんでした。それを短期間でここまで習得したのです。マドリックの指導が良かっただけではないでしょう。かなり努力したことが伺えますし、一人前の魔法使いになったのだと感心しました。気になったのはゴブリンの攻撃です。知能の低いゴブリンが多数で、さらに地

	形の有利を活かして襲ってきました。ゴブリンの襲撃には何か裏があるのではないかと不安に感じました。
『オークの樹の下』91話～100話	強くなったヒロインは、戦いの場にだって参加します。夫の無事を祈りながらただお城で待っているだけじゃないんですよね。とはいえ、やはり疲れ切るしがけ崩れに巻き込まれてしまったりと大活躍とはいかないところ。見ているこちらとしてもドキドキハラハラものです。優秀な魔法使いに教えてもらうことで魔法の能力が上がったのでしょうか。
『オークの樹の下』91話～100話	遠征に魔法使いとして同行したいと自ら申し出たマクシミリアンに成長を感じました。リフタンに断られても諦めないところとか、以前にはなかった強さを感じます。リフタンは危険なところにマクシミリアンを連れて行きたくなくて、それが彼の優しさなのかもしれないけれど、もうちょっと優しく丁寧に説明してあげればいいのにと思いました。
『オークの樹の下』101話～110話	今回の遠征で、マクシーがかなり成長しましたね。ゴブリンを魔法で倒すなんて、以前のマクシーでは考えられないことですよ。あと、以前のマクシーなら、見知らぬものを食べることはできなかったでしょうが、美味しそうに食べていました。その食べっぷりにリフタンも驚いており、まるで別人のように変わったなと感心しました。
『オークの樹の下』101話～110話	相変わらず、マクシミリアンに何かあるたびに心配する心が怒りにかわって怒ってばかりのリフタンですが、マクシミリアンもちゃんと彼の気持ちが分かるようになっている気がします。私生児という立場だった彼、感情を素直に表現するのが苦手なのも当然なのかもしれません。裸を見られたって、これまで何度そういうことやってきてるというんですか。
『オークの樹の下』101話～110話	複雑な過去を話してもらえるということは、それだけ信頼感が育っているってことでしょうね。リフタンによる護衛術指導のシーンなど本当に楽しそうです。って夫婦のじゃれあいが戦いの練習ってどうなんでしょうね。って夫婦になってどれだけの時が過ぎたというのか、いまさら裸を見られたからって。変わらぬ初々しさがいいです。
『オークの樹の下』111話～120話	ワークハウスで活躍したマクシーはとてもかっこよかったです。これまでアナトールのために必死に学んできた努力が役立ちました。レバンの人達からすれば、なんて凄い人なんだと驚いたに違いありません。他のレディ達にも良い影響を与えていましたし、その活躍ぶりには爽快感を覚えました。ただ、マクシーの暴走が少し心配です。流石に、イドシラと一緒に後方支援隊に加わるのは、不味かったのではないでしょうか。無事到着できることを、ただただ祈るばかりです。
『オークの樹の下』111話～120話	リフタンがマクシミリアンのことを心配してあげているシーンが多く、リフタンの精神的な成長が感じられました。マクシミリアンもそんなリフタンを見て、少しずつ心境に変化が出てきたようにも見えました。アレン大公という新しいキャラクターも登場したことで、さらに物語のスケールが壮大になっていく感じがして、読んでてワクワクが止まりませんでした。
『オークの樹の下』111話～120話	マクシミリアンとリフタンが離れ離れになるシーンは、切なさで胸が締め付けられると同時に、2人がお互いを深く想いあっていることが伝わってきてキュンとしました。その後マクシミリアンが出会った新キャラのイシドラとクアヘルのおかげで、ストーリーがまた違った方向へ展開し始めて、面白かったです。特にイケメンなクアヘルはリフタンといつか対面するシーンがあるのか、気になります。
『オークの樹の下』121話～125話	今回はルースが本当に気の毒でした。まるで、突然爆弾を背負わされたかのような状況でしたからね。リオンのように見て見ぬふりができればよかったのですが、ルースにはそれができません。ルースに同情してしまいました。最後の展開には大きな衝撃を受けました。さすがに今後の展開は予想がつきません。リフタンがマクシーにどのように接するのか、非常に興味深いです。
『オークの樹の下』121話～125話	ルースとマクシミリアンのやりとりが相変わらずで面白かったですし、懐かしい気分になりました。いろいろと気苦労の多いルースには、ぜひ幸せになってほしいです。クアヘルも意外と親切な人柄で、家族には恵まれなかったマクシミリアンですが、現在は良い人たちに囲まれているなと感じました。

『オークの樹の下』121話～125話	日常の中で少しずつ強くなっていたヒロインですが、戦いについていくことで加速度的に強さを増していますね。自分で決めたことだからというセリフは尊敬します。ルースを前にした笑顔は、確かにリフタンが嫉妬するのもわかる。とはいえ、影からこっそりリフタンを見る彼女の様子を見ればどちらがより大切かなんて一目瞭然なんですけどね。
『オークの樹の下』126話	ひとまず落ち着いたのは本当に良かったですね。あのまま感情のままに言い合っていたら、さらに溝が深まっていた可能性も高いですし、リフタンが一度距離を取った判断は結果的に正解だったように思えます。お互いに冷静になる時間があったからこそ、自分の気持ちを整理できたのでしょう。ただ、問題はむしろこれからのように思います。戦場という状況を考えれば、マクシーの存在はリフタンにとって守るべき対象であると同時に、大きな制約にもなってしまいます。どれだけ実力があっても、守りながら戦い続けるのは現実的に厳しいでしょうから。だからこそ、マクシーを安全な場所へ戻すのか、それとも何らかの形で戦場に関わらせるのか。リフタンがどのような決断を下すのか注目したいです。
『オークの樹の下』127話	アグネスの提案は、非常に的を射たものであったと感じました。リフタンとしても、対応に苦慮していたのではないでしょうか。マクシーを戦場に同行させることは難しく、かといって離れた場所に置くことにも不安が残ります。さらに、ここまで命懸けで来たマクシーを無下に帰すことは、リフタンの性格からしても考えにくいでしょう。そうした状況を踏まえると、アグネスの提案はマクシーにとって新たな居場所を与えるものであり、前向きに受け入れる価値のあるものだと感じられます。一方で、アグネスの洞察力にも感心させられました。これまで自由奔放な印象が強かった彼女ですが、人の心情や状況を的確に読み取る鋭さを持ち合わせていることがうかがえます。その点においても、王女としての資質を感じさせられる場面でした。
『オークの樹の下』128話	イシドラがよい役割を果たしてくれたように感じました。マクシーが戦場まで追いかけてきた行動は、愛情ゆえとはいえ、かなり向こう見ずなものだったと思います。だからといって、もし誰かに頭ごなしにその事実を指摘されていたとしても、当時のマクシーは素直に受け止めることができなかったのではないでしょうか。イシドラとの会話の中で、自分自身の行動を客観的に見つめ直せたことに大きな意味があったのだと思います。一方で、ニルタの傷が気になりました。本人は明るく振る舞っていましたが、ルースが心配するほどの傷です。周囲を安心させるために無理をしている可能性も高いように感じました。ニルタの状態は兵士達の士気にも大きく関わってくるだけに、マクシーがどこまで支えになれるのか、今後の展開に注目したいところです。
『オークの樹の下』129話	マクシーの勇気ある行動には、とても胸を打たれました。これまでのマクシーは、どちらかといえば気が弱く、人と普通に会話をすることすら苦手としていた印象があります。だからこそ、あの状況でリヒトに真正面から立ち向かうことはできないのではないかと思っていました。しかし、その予想は良い意味で裏切られることになります。リヒトから向けられる威圧感や恐怖に押し潰されることなく、自分の意思をはっきりと示し、堂々と言い返してみせた姿には強い成長を感じました。
『オークの樹の下』130話	改めて、リフタンの圧倒的な強さを実感させられる展開でした。相手のブレストンは、フィル・アロンで副団長を務めるほどの実力者です。並の相手ではないことは間違いなく、多くの人が激戦を予想していたのではないでしょうか。それにもかかわらず、リフタンはほとんど寄せつけることなく、見事に圧倒。まさに規格外とも言える強さで、その圧巻の戦いぶりには思わずしびれました。
『オークの樹の下』131話	マクシーとリフタンの二人が、互いに自分の気持ちを素直に伝え合えたのは本当に良かったと思います。これまでは、きちんと言葉にしてこなかったせいで、お互いに微妙な思い違いをしていました。その結果、マクシーは一人で悩みを抱え込み、リフタンの本心を正しく理解できずにいたのでしょう。ですが今回、しっかりと向き合って気持ちを伝え合ったことで、二人の間にあった誤解は解けました。これからは無駄に悩むことも減るでしょうし、夫婦として支え合いながら歩んでいってほしいですね。一方で、気になるのはブレストンの存在です。リフタンは、マクシーはあくまできっかけに過ぎず、遅かれ早かれ衝突は起きていたと語っていました。恐らく、それは事実なのでしょう。ブレストンがこのまま大人しく引き下がるようには思えませんし、次にどんな行動を起こすのか注目したいところです。

『オークの樹の下』132話	リフタンとブレストンが同じ会議の場で話し合いをしているという事実には驚かされました。二人の様子を見る限り、顔を合わせれば今にも殺し合いになりそうなほど険悪な関係でしたからね。本当に冷静な話し合いが成立するのか、不安に感じていました。もっとも、リフタンが何事もなかったかのような顔で戻ってきたところを見ると、その心配は杞憂だったのでしょう。個人的な感情はあっても、戦場ではそれを優先しないあたり、リフタンもブレストンも一流の戦士なのだと感じました。一方で、気になるのはこれからの戦いの行方です。総力戦になるということは、勝敗にかかわらず被害は避けられないでしょう。リフタンをはじめとした仲間たちが無事に帰ってこられるのか心配になりました。
『オークの樹の下』133話	流石はルースだと感じさせられる展開でした。これまで戦場においては、リフタンの判断こそが絶対だと思っていました。しかし今回、戦況はルースの予測どおりに推移していきます。単に知識が豊富なだけでなく、戦局を分析し、先の展開まで見通す能力に長けていることがよくわかりました。もはや一介の魔法使いとして扱うには惜しいほどの才能を持っているように思えますね。一方、マクシーの体調が気になります。長期戦になったとはいえ、これはこれで問題とでもいいましょうか。先の見えない戦況が続いたことで、マクシーに相当な心労が蓄積しているように感じました。このまま戦場に留まり続ければ、心身ともに限界を迎えてしまいそうです。
『オークの樹の下』134話	魔物たちの狡猾さには驚かされました。これまで受けて来た印象だと、せいぜい夜襲を掛けてくる程度といったもの。確かに脅威ではあるものの、基本的には力任せに襲いかかってくる相手だと思っていたんですよね。しかし、今回の挟撃作戦はそんな単純なものではありません。城内にアンデッドを潜ませ、守備が手薄になるまで待機させる。そして外部の魔物たちと連携し、最も効果的なタイミングで同時攻撃を仕掛ける。これは単なる思いつきで実行できる作戦ではなく、高い組織力と戦略性がなければ成立しません。これほどの強敵を相手に、本当に勝ち切ることができるのかと不安になります。一方で、ニルタが気になりました。大怪我を負ったその身で無理をすれば、ルースの言う通りになる可能性は高いでしょう。この場をマクシーがどのように収めるのか注目したいです。
『オークの樹の下』135話	ユーリたちの機転には感心させられました。さすがにルースたちも、ここまで細かい状況を事前に想定していたわけではないでしょう。ユーリたちは、援軍を呼びに行くという大義名分を持ち出しました。エチレン城が危機的状況にある以上、その任務の重要性は誰もが理解できます。マクシーもまた事態の深刻さをわかっているからこそ、その説明に納得せざるを得ませんでした。極限状態の中で、マクシーを納得させる理由を考え出し、それを自然に演じ切ってみせたのは見事としか言いようがありませんね。
『オークの樹の下』136話	マクシーには驚かされました。これまで戦場に身を置いていたとはいえ、治療等の後方支援がメインです。実際に戦っている場面を目にしてきたわけではありません。ゆえに、要塞が魔物の大群に襲われている光景は相当な衝撃だったのではないでしょうか。しかしマクシーは動揺するどころか、この状況を打開する作戦を思いつきます。土壇場での判断力の高さには驚かされました。一方で気になるのは、魔物たちの襲撃です。ユーリたちが傍にいればいいのですが、今はマクシーだけ。普通に考えれば、絶対絶命のピンチといえるでしょう。マクシーがこの窮地をどのように切り抜けるのか注目したいです。
『オークの樹の下』137話	マクシーの活躍は見事でした。よくぞ、あれほど巨大な岩壁を崩してみせたものだと感心します。もちろん、最後の最後まで死力を振り絞ったことが成功につながったのは間違いありません。しかし、それと同じくらい重要だったのが、マクシー自身の冷静な考察だったように思います。最後の奇跡を呼び込めたのは、決して根性だけではなく、最後まで諦めずに考え続けたからこその結果だったのではないでしょうか。これで要塞の戦況は一変しました。とはいえ、エチレン城では今も激しい戦いが続いているはずです。果たして城ではどのような戦況になっているのか注目したいです。
『オークの樹の下』138話	マクシーたちが逃げるシーンは、本当にハラハラしました。ユーリたちはマクシーを背負って運び、途中では岩穴で休ませるなど、できる限りの手を尽くします。しかし、その甲斐もなくマクシーの容態は回復するどころか、時間が経つにつれて悪化していきました。そんな極限状態の中、さらに追っ手まで現れてしまうのですまさに八方塞がりの状況で、今回ばかりはどうしようもないのではと諦めかけました。

『オークの樹の下』139話	色々ありましたけど、マクシーの意識が戻って何よりでした。岩壁を崩すために、かなりの無理をしていましたから。この様子だと後遺症などもなさそうですし、一安心しました。一方で、リフタンが気になります。最愛の女性がずっと意識を失っていたのですから、取り乱す気持ちも理解できます。リフタンがマクシーにどのように接するのか注目したいです。
『オークの樹の下』140話	マクシーの功績は、想像以上に大きかったのだと改めて驚かされました。岩壁崩しで劣勢を覆したことはわかっていましたけど、まさかここまでとは思いません。戦力を減らしても勝ちは揺らがないとなると相当です。本当によく頑張ったねと褒めてあげたくなりました。一方で、アグネスと一緒に帰還することが気になります。マクシーが魔術師になったのは、アグネスの提案によるものでした。二人きりになると、また色々言ってくるのではないかと不安を感じます。
『オークの樹の下』141話	今回はマクシーの活躍で、魔物との戦いは終息に向かいました。しかし、ここまで魔物を指揮できるものがいるのです。この敗戦で諦めるとは考えられません。となればリフタンが戦場へ赴くことも多くなるでしょう。マクシーとリフタンが二人でのんびり過ごすということはなかなか出来ないんだろうなと寂しく感じました。
『オークの樹の下』142話	マクシーの体調が元に戻りそうでホッとしました。いくら魔力を使い果たしたとはいえ、これだけの日数が経過していれば回復しても不思議ではありません。それだけに、本当に治るのかと不安を感じていたんですよね。まだ本調子には戻っていないとはいえ、回復の兆しが見えたことに安心しました。
『オークの樹の下』143話	リフタン達が無事だとわかって何よりでした。負傷者がいるという記述に引っかかりを覚えましたが、この世界には回復魔法があります。恐らく、実際に会う頃にはリフタンたちはみんな元気になっているでしょうし、一安心できました。とはいえ、まだ不安は残ります。マクシーにとって、父親はトラウマそのものともいえる存在です。ただでさえ弱っているマクシーが父親と会うのは、非常に不味い展開のように感じました。
『オークの樹の下』144話	公爵の言葉があまりにも衝撃的でした。マクシーの体調がなかなか快復しないことに違和感はありました。しかし、それだけ魔力を振り絞ったためだろうと納得していたんですけど、そうではなかったんですね。これだけ心の弱った状態だと公爵の言葉に従ってしまいそうで心配になりました。
『オークの樹の下』145話	今回は状況が悪かったですね。マクシーが通常の状態であれば、公爵の誘いを断れたかもしれません。しかし、今の精神的に弱っているマクシーにそれを期待するのは無理というもの。今回は本当に間が悪かったとしか言いようがありません。
『オークの樹の下』146話	マクシーには悪いですけど、ロゼッタの言葉にはスッキリしました。戦場で大手柄を立てたので有耶無耶になっていましたけど、実際はロゼッタの言う通りなんですよね。自分の行動が周りにどんな迷惑を掛けるか考えずに行動した結果がこれ。もう少し慎重に行動していたら、こんな結果にはならなかったのにと思ってしまいました。
『オークの樹の下』147話	侍女のファインプレーでした。衛兵に対して違和感を覚えたとしても、普通は調べたりはしないでしょう。しかし侍女は調べ上げ、マクシーにレムドラゴン騎士団が来ていることを教えてくれました。もし侍女の言葉が無ければ、マクシーは何ら気づかずに過ごしていたことは間違いありません。ここはマクシーにとって完全なアウェイかと思われましたけど、味方になってくれる人がいて良かったです。
『オークの樹の下』148話	リフタンがどのような対応をするのか気になりました。マクシーが鞭で打たれているシーンを目撃してしまったのです。リフタンなら、例え相手が公爵でも黙っているとは思えません。公爵を容赦なく叩き伏せるような、胸のすく展開を期待したいです。
『オークの樹の下』149話	暴力反対といいたいところですが、今回だけは例外ですね。よくやってくれたとリフタンを褒めてあげたくなりました。特にスカっとしたのは、リフタンが回復魔法をかけてもらえばいいだろうと言い放ったシーンです。公爵はマクシーに暴力を振るっておきながら、回復魔法をかければ許されるかのようなことを口にしていました。しかし、その理屈が通るのであれば、リフタンの暴力も許されるはずです。ただ殴るだけでなく、公爵の言葉を逆手にとった上でというところが最高でした。

『オークの樹の下』150話	今回は、かなりスッキリする展開でした。リフタンとマクシーが愛し合っていることはわかります。でも、どこか引っかかるものがあったんですよね。例えばマクシーでいうなら、すべてを伝えると嫌われるのではないかと秘密にしていた部分もありました。相手に嫌われることを恐れ、自分をさらけ出せていないとでもいいましょうか。もちろん、誰しもそういうところは多少あると思うんですけど、マクシーはその傾向が強すぎるきらいがありましたから。でもこれで、二人の関係は以前より前進するのではないかなって思います。
『オークの樹の下』151話	リフタンの気持ちがわかってスッキリしました。なぜここまでマクシーを愛しているのか、今ひとつ理解できなかったんですよね。リフタンが普通の騎士であるなら、わからないでもありません。しかしドラゴン討伐の大功を立てたことで、妹のロゼッタどころか王女のアグネスまで娶れる立場になりました。それなのになぜマクシーなのかと疑問に感じていたわけですが、今回でようやく納得できました。公爵がどのような行動を起こすか等不安材料は未だ残っていますけど、ひとまずは二人で幸せな時間を過ごして欲しいですね。
『オークの樹の下』152話	リフタンの帰城シーンが笑えました。もちろん、リフタンの指示が重要なことなのはわかります。クロイソ公爵がこのまま黙っているとは考えられませんし、これまで以上の警戒が必要でしょうから。でも、城内の者たちはそういった経緯を知りません。いきなり何を言い出すんだと呆気にとられる姿が面白かったです。
『オークの樹の下』153話	ルースの言う通りですね。戦争の際、マクシー自身は最後に魔法を使っただけだと軽く考えているのかもしれません。しかし、周囲から見ればどうでしょうか。マクシーが流産したことからもわかるように、文字通り命を懸けて助けてくれたわけです。レムドラゴン騎士団の面々にとってマクシーは命の恩人であり、大切な仲間だと感じるのも当然と言えるでしょう。マクシーはアナトールにとって、かけがえのない人物になっていたんだなと改めて感じました。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス